

2011.9.17 J B V P 討論

Q1: 気管支鏡操作中、気管粘膜処置中に出血が生じることがあった。その時の対処法について教えてほしい。

A1: 出血の量にもよりますが、まず肺実質内に血液が流入しないように肺を上、頭部を下にするポジショニングをとります。出血部位が気管で、気管分岐部からある程度距離がある箇所であれば、気管チューブのカフをその出血部位を超えた位置で膨らまし肺実質内に血液が流入しないようにすることがよいと思います。気管粘膜からの出血は基本的には静脈出血であり、大量出血は少ないはずですが、炎症が強い病変では血流が増加するし、とくに腫瘍病変なら組織内に動脈が進入していることもあるので要注意です。とくにその隆起病変が心拍に同調する拍動を伴っている場合、生検禁忌です。動脈瘤の可能性がありません。

Q2: 犬猫で気管支肺胞洗浄は実施可能か？ または実施するならその実施基準を教えてください。

A2: もちろん可能です。ただし、実施前にはその適応を十分考慮する必要があります。検査前に動脈血酸素分圧値が **60mmHg** 以上あった方がよいです。また、例えば細菌性気管支肺炎を疑い、気道内の病原菌同定を行いたい場合、気道内分泌物多量であればその分泌物のブラッシング検体で細胞診と微生物検査を行えば、あえて肺のコンディションを危険にさらすことはありません。